



ふるさとウォーキング

～連合地区の旧道を歩こう～

十一月一日、恒例の地域探訪「ふるさとウォーキング」が連谷公民館・コミュニティ・連谷小学校・連谷明老クラブ主催で行われた。

八時三十分、(開会セレモニー)連谷小学校校庭に参集した約六十人と児童十一人は連谷の知識人丸山敦志さんから本日の行程「田峯観音道・善光寺道・昔の道」について連合の里を通った信仰の道や、先祖たちの生活の道を歩くことを通して、遠い昔の先人たちの厳しい村づくりを学び、ふるさとを見直し、郷土を愛する気持ちを高めたい。また、深まり行く秋の大自然に直接ふれながら、日頃の憂さを忘れ心体ともに健やかな一日を送り明日の糧としたい。と説明があった。九時出発。真菰辻→方瀬辻→方瀬の踊り場→樺井戸→宗山塔→大曲り石仏群→代良木トンネル→百田→峠ん堂→高札場→溜まり水界限を巡り十二

時に学校到着。

校庭では炊き出し部隊が大はそりいっぱいのイノシシ汁を精魂込めて調理。名物の五平餅や皮肝などの焼肉もふんだんに、食欲を誘い、



日頃、歩きなれない参加者もドンブリ片手にうまい旨いの連発で、疲れなどふつ飛んだようであった。道中拾い話

・上真菰の繁蔵様⇨歯が痛い時お詣りすると直ぐ治るといふ。
・根道は白いキツネが出て人を化かしたといふ。
・与良木の太曲⇨昭和三十年代までは盆踊りが盛んで、近隣から大勢訪れた。

・与良木トンネル(マンボ)⇨切石の横積み珍らしい。明治二十七年開通。
・百田⇨今から約三十年前まで沢添いに小さな棚田が耕作されていた。
・武田軍 敗走の伝記⇨天正三年、長篠の戦いに敗れた武田軍の残党は、甲州を目指して敗走した。織田信長は「追討は与良木峠までにせよ」との命であった。

連谷お助け隊地域に貢献

連谷お助け隊は結成以来、四谷の千枚田を核にした連谷地区の活性化に取り組んでいる。

その、大きな取組として①お田植え感謝祭「みんなで灯そう千枚田」②地域環境整備活動③各種イベント等に積極的に協力。等々

十一月八日、地域環境整備活動として本年は連合松下地区の生活道路の障害木の除伐や枝打ち作業を

行った。

当日は、保存会員や松下地区住民の参加もあり、覆い繁った生活道路(市道)も見違えるほど明るくなった。なお、この活動は「あいち森と緑づくり」助成事業の一環として、交付金を活用したチエンソー等が大活躍。地域住民に大変喜ばれた。



また、ふるさと指導員活動支援物資の高ハシゴや高枝切りも「むらづくり」に貢献した。

田園自然再生コンクールに上位入賞をねらう!

農林水産省では、環境省等と連携し、農村地域の自然環境の保全・再生をめざして農業者、地域住民、団体などが協力して行っている「田園自然再生活動」の取組の中から、優良事業を表彰している。

第七回となる今回は、来年十月に愛知県・名古屋市中で開催される生物多様性条約第十回締約国会議(COPI10)をPRするイベントとして認定を受けて行われる。

四谷の千枚田もカエルやタニシ、ドジョウなど生物と共生した米づくりや地域活動をテーマに応募した結果、上位に評価され、十月二十一日、審査委員 小原孝生(生態学研究所所長) 井上和衛(都市と農村漁村の共生・対流推進会議運営委員) 近藤秀樹(農林水産省農村環境課課長)ほか関係機関による現地調査があり、農林水産大臣賞獲得を視野に現地調査を受けました。

- ・農林水産大臣賞
- ・農村振興局長賞
- ・環境省自然環境局長賞

ふれあい教室・学芸会

十一月二十一日、連谷小学校ではふれあい教室と学芸会が開かれます。ふれあい教室は午前十時からホ

ールにおいて連谷明老クラブ会長の丸山敦志さんが「千枚田の石垣を築いた先人達の生きざま」というテーマの話があります。

餅つきは十一時十五分から千枚田で児童たちが収穫したもち米を野外で蒸し、杵と石臼で餅つきをおこない、参加した皆さんに振る舞われます。

収穫感謝祭 田吾作主催

恒例となった収穫感謝祭「餅つき大会」が十二月六日(日)、開催されます。大勢の皆さんをお待ちします。

獣害対策講習会



十一月二日、新城市平井地区において「竹と間伐材で作る檻によるイノシシの捕獲方法」の講習があり、連谷地区から六名が受講した。

講師は岡崎市鳥獣害対策研究会所属で竹檻の考案者成瀬勇夫氏で、竹切りから檻完成まで実地指導、参加者も、苦慮するイノシシ退治に有効な竹檻作成に自らも参加。詳細部をメモしたり写真に収めたり真剣に取り組んだ。

うまい!を明日へ!

「うまい!を明日へ!」プロジェクト
 愛知・名古屋のあなたの「うまい!」が、
 多様ないのちを育む
 地域づくりにつながります。
 「うまい!を明日へ!」プロジェクト実施プログラム
 愛知県のみなさまの参加募集!
 抽選でペア50組100名様 (詳しくは募集要項をご覧ください)
 SUPER "DRY"
 これがビール売上No.1の責任。

アサヒビールは、愛知・名古屋が推進している、自然と共生できる地域をめざし、生物多様性の保全への取組に賛同し、愛知県内で販売した「アサヒスーパードライ」対象商品

一本につき一円を「COPI10 支援実行委員会」に寄付し、生物多様性への理解を深める活動や、自然との共生に向けた取組に寄与している。

この、プロジェクト第一弾ではすでに千四百四十万七千五百七十五円を生物・自然再生と共生する地域づくり活動に寄付された。

今回は、その二弾として「四谷の千枚田」がテレビコマーシャルやポスターなどで大活躍、訪れる人がまた増えてしまった。

視察

十一月十八日、三重県熊野市紀和町の丸山千枚田から十名の皆さんが「棚田保全の取組に係わる情報収集及び意見交換」と題して訪れます。棚田を持つものと同じ悩みが忌憚無く語れるよい機会と思えます。

インフォメーション(放送済み)

- ・十月二十日、テレビ愛知「連谷地区に於ける獣害被害と対策」
- ・十月三十日、東海テレビ「はなわ親子が田吾作の協力で粍蒔きから収穫までの稲作体験」
- ・十月三十一日、中京テレビ「千原夕のしよゆ旅最終編(田植、稲刈り、脱穀、粍摺り、精米まで)」

行 平成二十一年十一月十五日

鞍掛山麓千枚田保存会

発 文 責 小山舜二